

1 参加者 学校運営協議会委員 5名, 校長, 学校事務局等 8名

2 報告概要

① 令和元年度学校経営計画 進捗状況

(1) 概要説明

《中期的目標》

- 1 進路指導の確立：入試改革へのリアルタイムの対応
- 2 「確かな学力」育成：一步ずつ進んでいる。
- 3 人間性の育成：寄り添いの姿勢を重視し、他者理解やスクールカウンセラーなどの専門家の力を借りて取り組んでいる。
- 4 地域に開かれた学校づくり等：地域との連携、中学校や地本との交流促進
- 5 校務の効率化：進んできているが、まだまだ効率化をする必要がある。

(2) 各分野の説明

《進路指導》

- ① 英語民間資格試験見送りの発表への対応を説明。保護者への案内も発行。また4技能の習得をめざすことに変更ないことを伝える。
- ② 1, 2年生でGTECを昨年度より実施。12月7日はオフィシャルなので、私大入試に結果を活用できることと4技能習得の観点より予定通り実施することを報告。

《指導の「目線合わせ表」》

- ① 学校として指導の柱をきちんとして行くために「目線合わせ表」を作成。今年度中に3学年分の「目線合わせ表」を作成。次年度より全校でぶれない指導を進めることに。
- ② 『勉強に困ったときに読む本』を1年生版、2年生版と作成、配付。「どうやって勉強していいかわからない」という生徒のためのガイドブックとする。

《教育課程》

- * 44期生より教育課程の変更。2年次より文理分けを実施し、早期に文理指導を行う。2022年度(46期生)より新教育課程となるので、そのベースともなっていく。

《探究の時間》

- * 令和2年度本格実施の「探究の時間」の構築を進めている。1年生では自己理解を進め、将来設計につなげていく。2年生では地域や学校を知り、課題発見力・課題解決能力の育成を。3年生では様々な力をつけ、自己の将来をはっきりと見据え、自分の進路を実現させます。

《授業アンケート》

- * 7月第1回目を実施。全質問項目の平均値は肯定的数値が上昇しています。生徒の前向きな姿勢と教員の地道な授業改善への取組みの結果である。

《授業研修》

- ① 「授業研修」を実施。
- ② 今年度は「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を教科を超えて共有。
- ③ 今年度の「総合的な探究の時間」実践を見学、授業ための課題を共有した。

《海外研修》

- * 今年度もオーストラリア(シドニー)へ11日間、24名が参加。英語研修だけでなく多文化体験・理解にも重点。事前指導、事後指導も行いました。

《教育相談体制》

- * 昨年度より教育相談委員会を生活指導部より独立。「連絡会」を組織し、週1回会合を行い、情報提供・共有。年間10回の配当がありますが、校長マネジメントにより5回追加で実施します。

《生活指導》

- ① 1学期の遅刻数は昨年より減少傾向
- ② 通学マナー等の苦情に対して生徒周知と指導をその都度実施
- ③ 囲碁将棋サークルが誕生。男バレ部は2年連続で近畿大会出場、ダンス部は8年連続で全国大会へ出場、

《地域連携》

- ① 今年度も多くのクラブが地域の行事等に参加。また裏山を使用した連携や交流も多い。

3 協議概要

≪「書く力」≫

*中学生も書く力が弱い。高校でついていくために中学時代にやっておくものがあるか。

A:「探究」をどれだけ取り組めるかが、ポイントとなると思います。

≪自己主張≫・刀根山高校生は「自己主張が苦手」と思われるが。

A:いろいろなことを自分で考えることが大切だと思います。

≪教育相談≫

①教育相談の「支援すべき生徒」にはどんなタイプが多いか。

A:いろいろな課題を持つ生徒がいます。

例えば起立性調節障がいの子への学習面、生活面への支援。

スクールカウンセラー（SC）へは本人、保護者、教員との面談を行います。

②ケース会議対象生徒は？

A:教室に入れない生徒、起立性調節障がいなどの生徒に対して実施しています。

各学年で5～6名程度、必要に応じてSCと一緒に話し合います。

外部機関や専門機関等との連携は、まだ具体的には実施していません。

「高校生活支援カード」、「中学校訪問等での情報収集」そして普段接している教員の“気づき”が基になり、必要な対応や情報共有を行います。

③起立性障がいの生徒は多いか。出席、単位認定等の問題が高校では出てくるのでは。

A:生徒によりいろいろな対応を行っています。特に生徒本人の学校生活に対する意欲や家族の姿勢が大切です。例えば考査時刻変更等を行っています。

④保健室の利用状況はどうですか。

A:毎日多くの生徒が利用しています。教室に入りにくい生徒もよく保健室を利用。

1060名程の生徒を一人の養護教諭が担当。SCにつないでいくことも大切で、月1回のSC来校では不足しています。

≪部活動≫

①「部活の日程が、特に夏休み等では直前まで分からない」という声が保護者からあり。

A:練習計画を事前に組んでいるので、直前まで分からないということはないと思うのですが。しかし、試合の関係で練習予定が変わることは多々あります。

②PTAとしても保護者 vs 教師ではなく、保護者と教師とが協力し合っていきたい。

≪防災≫

*地域と連携した防災計画は？

A:済みませんが進んでいません。本校の生徒、教職員の「防災意識」がまだ不十分
地域でどこにだれが住んでいるかを把握することが難しい。本校の防災訓練に地域住民の方の参加をお願いする方向を検討する必要がある。昨日、地域の防災訓練で地域の方が本校内でAEDを探されていました。その時の教職員との会話で「AEDを置いてある体育館の位置が分からない。校内図がない。」と。

≪ボランティア≫

*東北ボランティアはどうでしたか。

A:大槌町の町長さんのお話が非常に印象的でした。また語り部の方の話も参加生徒に響いていたと思います。2年生10名がと豊中市主催の座談会に出席しました。

≪「探究」≫

*「探究」で空港を扱う理由は？

A:将来の進路や職業を考えることが大切。たまたま本校の近くに大阪国際空港という多彩な職業を持つ人たちがいて、ここを糸口に考えさせることが面白いと。

*マナーだけでなく、刀根山高校のプラス面を考えさせることを「探究」で取り上げる必要があると思う。

A:現在の「探究」でもその点を生徒に考えさせる取組みを行っている。来年度も考えさせる予定です。